本を通して命を考える 細野中で命の授業

1月20日、細野中で小学6年生と中学1年生を対象に「いのちの授業」がありました。鹿児島国際大学の種村エイ子教授が講師として登壇し、本の紹介や、写真に写った人物の夢を児童や生徒に想像させるなどユニークに講演を展開。種村教授は「命を大切にし、自分だけの特技や個性を生かして夢を実現してほしい」と話していました。

児童や生徒からは「命の大切さを学んだ」「夢の実現のために諦めず努力し続けたい」と感想が聞かれました

小林小6年生の竹下真里南さんが代表し「想像力や思いやりの心を育てるために、読書をしていきたい」とお礼の言葉を述べました

想像力や思いやりを育てて 小林小・中で読書推進講演会

1月20日、子ども読書推進事業講演会が、小林小学校と小林中学校で開催されました。真生会富山病院心療内科部長で、精神科医の明橋大二さんが「大切なことは、みんな本から学んだ」と題し講演。4冊の絵本を紹介しながら、「読書は別の人生が体験できる。人間の幅を広げて、想像力や思いやりを持つ子になって」と話していました。

少年補導員と児童が交流 栗須小学生が椎茸の植菌体験

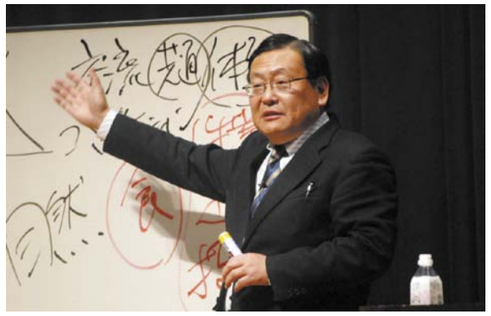
1月21日、少年補導員連絡会が主催する地域ふれあい事業が三ヶ野山体育館前広場で開催されました。児童や保護者ら42人が参加し、県西地区の少年補導員35人が椎茸の植菌方法を教授。参加者は少年補導員の手を借りながら、クヌギの原木に穴を空け、種駒の打ち込みに挑戦しました。

小林地区の大畑忠正会長は「体験や交流を通して、感性豊かな時代を担う若者に成長してほしい」と話していました

「認知症の理解とケアを近所や地域、まちぐるみで進める必要がある」と訴えたグループホームふぁみりえの大谷るみ子ホーム長

認知症の理解をまちぐるみで 介護予防フォーラム

1月22日、介護予防フォーラムが文化会館で開催されました。ほたるネット劇団による劇で開幕し、傾聴や介護支援を行う市内2団体が活動実績を報告。また、井上孝徳教授と大谷るみ子さんの講演を通して、独居老人や、認知症のある人を地域で支えていくまちづくりについて学びました。



農家民泊を推進する北きりしま田舎物語推進協議会では、県内で初めて2013年に修学旅行生を受け入れることが決まりました

観る観光から体験する観光へ 体験型観光講演会

1月27日、体験型観光講演会が文化会館で開催されました。体験教育企画の藤澤安良代表が「ほんものの体験が必要な時代」と題し登壇。藤澤代表は社会情勢を紹介しながら「本物の豊かさが問われている時代。人と人との関わりを実感できる農家体験を」と話していました。

駅伝競走の部では、男子が東方野球スポーツ少年団、女子は小林ジュニアアスリートクラブAがそれぞれ優勝しました

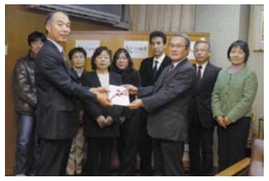
寒さに負けず元気いっぱい スポーツ少年団の集い

1月29日、小林市スポーツ少年団の集い（後援：九州電力株式会社）が総合運動公園で行われました。市内各地のスポーツ少年団員約312人が参加。トラックロードレースの部と駅伝競争の部が行われ、冷たい風が吹く中でも、子ども達は、日ごろ鍛えた体力と健脚を元気に競いました。

オオヨドカワゴロモ保護に60人参加

1月21日、小林市の岩瀬川にだけ自生する水中植物オオヨドカワゴロモの保護活動が行われました。市民など約60人が参加。参加者は、デッキブラシやほうきで生育を妨げる岩場の泥やごみをこすり落としていました。

細野小・中卒業生が桜の苗木を寄贈



1月19日、昭和46年度細野小学校・昭和49年細野中学校卒業生の同窓会有志一同から、桜の苗木が寄贈されました。小園久雄会長は「牧場の桜には幼いころから思い入れがある。桜並木の保持の一助に」と話していました。

ジブチから中屋敷剛士さんが帰国

1月25日、青年海外協力隊として2年間ジブチで活動した中屋敷剛士さんが市長を表敬訪問しました。中屋敷さんは自動車整備の講師として赴任。「経験したことを今後に生かしたい」と話していました。

三松中吹奏楽部が九州大会出場

1月25日、三松中吹奏楽部の部員3人が九州アンサンブルコンテストへの出場を前に市長を表敬訪問しました。大会演奏曲を披露し「力を合わせて感謝の気持ちを込めて演奏したい」と意気込みを語りました。

南九州駅伝が2年ぶりに開催

2月5日、第66回南九州駅伝競走大会が、えびの・都城間の7区間、61.25キロで開催されました。小林市からは4チームが参加。結果、小林高Aが県勢最高の3位に入賞しました。